

株式会社ディアライブ
池垣 朱音
2022年11月10日
初めての記事執筆

大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム
長期プロジェクトコース プロジェクト報告書

今回のインターンは、私はこの5か月間株式会社ディアライブのインターン生として実習をさせていただきました。株式会社ディアライブは、企業や店舗のWebプロモーション企画やWebサービスの開発・運営をされていて多言語サイトを手がけられているということや外国出身の社員の方がおられ、とてもグローバルな会社です。そして、私たちが行ったプロジェクトは京都のインバウンド観光上メディアコンテンツ拡充及び新規ソリューション企画というものでした。

目標について

まず、受け入れ先の方とどのような課題があるのかなどを話し合いました。課題・現状として挙げられたのは、コロナ禍によって外国人観光客が減ったことでした。そのため、究極の目標・アウトカムは、コロナ禍が終わる今後に向けて、外国人の方に京都に興味を持ってもらい、外国人観光客を増やすということに決定しました。そして、企業の目標は、手がけられているサイトのPV数を増やすことでした。

活動内容

ディアライブさんが手がけられているトラベラーズボイスというサイトの記事を一から執筆することでした。このトラベラーズボイスは、外国人観光客の生の声を届ける映像メディアということで、京都の各エリアにて外国人観光客にインタビューし、実際に感じたことやおすすめしたい場所、なぜ京都を訪れたのかなど、外国人観光客の生の声を映像で発信されています。そして、成果物・アウトプットである記事は、トラベラーズボイスのトリップアドバイスというブログの記事を執筆することでした。このトリップアドバイスは、日本の旅行に関する身近な疑問や、京都に関する観光情報など、日本・京都での旅行に役立つ情報を記事にして掲載されています。

活動の流れ

活動の流れとしてはこのように進めていきました。全てリモートワークで、記事の最終調整と投稿(実際は自分で投稿できなかった)はディアライブさんの事務所で作業させていただきました。テーマ決めは自由にリサーチし、テーマにしたいものを各自で決めました。プレゼンの資料作成とプレゼンは受け入れ先の方々にプレゼン形式で決めたテーマの目的や需要、ターゲットを説明するためにパワーポイントを作りました。普段、

受け入れ先の方が顧客の方に記事を売り込んでいるように、実際に記事を売り込むようなイメージでプレゼンをするということで、コツやどのようにしたら伝わりやすいかなど

を教えていただきプレゼンを行いました。そして記事を執筆し、受け入れ先の方から外国人の方に伝わりやすいようにするなど細かく修正していただきました。そして、記事の完成と投稿です。

記事について

記事のテーマは、『「三大祭り」で京都の歴史を感じよう！』です。なぜこのテーマを選んだかというところと京都の外国人観光客の人気スポットを調べたところ、清水寺や金閣寺など神社仏閣が上位をしめていて、需要はやはり京都の歴史や伝統だということに気づきました。そして、通常のゆったりとした雰囲気神社仏閣などとはまた違った、京都の歴史や伝統を生で感じられ、ライブ感を味わえるような「お祭り」というテーマに決めることにしました。また、お祭りは多くの地域や場所で、年に何回もあるという事で、京都・日本観光のリピーターになっていただくことも考え、このテーマに決めました。内容としては、こんな感じです。

- 1.日本のお祭りとは？
- 2.日本のお祭りの楽しみ方
- 3.京都の「三大祭り」

外国人の方だと日本のお祭りがどんなものか知らない方が多いと思うので、『1.日本のお祭りとは？』で、どんなお祭りがあるのか紹介し、『2.日本のお祭りの楽しみ方』で、伝統行事以外の楽しみ方や日本ならではの習慣など。そして、『3.京都の「三大祭り」

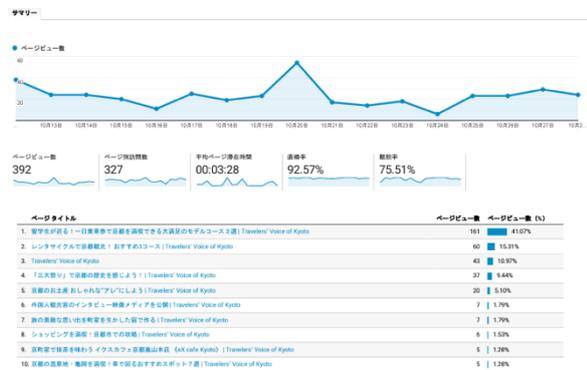
』京都のお祭りの中で規模が大きく有名である三大祭りと呼ばれる、葵祭・祇園祭り・時代祭りについて紹介しました。

プロジェクト評価

プロジェクト記録誌のワークシートのプロジェクト評価に沿って説明します。

- 有効性(プロジェクトの目標はどの程度達成できたか)

このグラフはサイト(トラベラーズボイス)全体のPV数(ページを閲覧した回数)のランキングです。記事を公開した10/12~10/28の期間でサイト内のどのページが何回見られたというランキングです。ページタイトルが並んでいる表の上から3行目のトラベラーズボイスオブキョウトはサイトのトップページなので、記事だけで言うと執筆した記事のページが3番目に見られているということがわかります。10日間という短期でのページビューなので、数字は少ないですが、この記事の需要としては認められるのではないかと思います。



また、日頃から記事を書かれていたり、グローバルな知識を持たれているデアライブの社員の方々から記事のフィードバックをいただきました。下の「株式会社デアライブ社員フィードバック」をご覧ください。このように良かったところと、よりよくするためのアドバイスをいただきました。ここからも有効性を認められるのではないのでしょうか。

株式会社デアライブ社員フィードバック

対象記事: <http://kyoto.travelersvoice.jp/ja/tripadvice/43>

フィードバック 1 (台湾出身の社員)

【良かったところ】
日本の文化から京都の祭りを紹介する流れが全体的に構成がよく、読みやすい記事です。

【より良くするためのアドバイス】
京都の祭りというテーマなので、1と2はもう少し簡潔にまとめて、三大祭りについてより詳しく説明したほうが良いでしょう。
祭りのルートは地図などいれるともっと分かりやすくなると思います。

フィードバック 2 (台湾出身の社員)

【良かったところ】
①全体的に構成が良かったと思います。三大祭りの紹介にとどまらず、日本のお祭り文化と祭りの楽しみ方も一緒に紹介することで、より読み応えのある記事になったと思います。
②バナーのルートと料案内などの情報を丁寧に紹介することもすごく良かったと思います。読み手にとっては役に立つ情報でしょう。
③専門用語をきちんと説明と補足することが良かったです。

【より良くするためのアドバイス】
①ルートは画像/地図で表現したほうがより分かりやすくなるでしょう。
②料金の話にとどまらず、どこで購入できるのかの情報を一緒に入れたらどうでしょう。購入方法の情報を求める読み手もいると思うので、そのほうがより親切かなと思います。
③「時代風俗行列」に関する説明をもう少ししてほしいですね。市民が日本の各時代のスタイルに扮して、パレードをするのがポイント/見どころではないかなと思います。

フィードバック 3 (アメリカ出身の社員)

【良かったところ】
-根本的なお祭りの「スタイル」(神社が行うお祭りと祭)の説明は海外向けに面白い切り口
-専門的な内容にはりすぎず、しっかりと外国人に向けて説明していると思います

【より良くするためのアドバイス】
-見出しのタイトルをもう少しキャッチーにできるかもしれません。例えば、「京都の「三大祭り」」だけじゃなくて、「お祭りに参加するなら見逃せない京都の「三大祭り」」や「京都の「三大祭り」でユニークなお祭りを体験しよう」など
-全然マストではないですけど、日本語で書いたインスタグラムのハッシュタグの一覧のリンクをつけると思いいいかもしれません。「リアルなお祭りの風景が見える!」。

フィードバック 4 (日本人社員)

【良かったところ】
-京都だけの紹介だけでなく、日本全国の色々なお祭りを紹介していて、他の記事との差別化になっているところ
-記事全体が、お祭りの雰囲気を持った明るいものになっているところ
-外国人の目線を意識して、専門用語や日本人しか知らないような言葉は補足説明しながら紹介しているところ
-ボリュームのある、満足感のある記事になっているところ

【より良くするためのアドバイス】
-「～だと思いが」が入ると、急に話者の存在が出てしまいます。感想文ではないので、このような書き方をすることは事実をベースとして「私はこう思う」という言い方はけた方が良いでしょう。(大学の論文でも同じことかと思えます)
-今回紹介する三大祭り、これから紹介する祭りと関係性などの表現が多く、なかなかメインに入らない印象を受けました。とはいえ、全国の話や一般論が紹介されることで厚みが増しているのでも、逆に日本のお祭りは？や日本のお祭りの楽しみ方の章では、三大祭りを特別扱いして言及しない方がスムーズになると思います

● 妥当性(究極の目標を達成するためにプロジェクトは妥当であったか。)

課題を挙げると、PV数を増やすために記事を広めるという方法もあったのではないかと
いうことで、コロナ禍で写真を取れないため断念しましたが、SNSで記事を公開したり、

SNS から記事のサイトへ誘導したりできると良かったなと思います。

- 効率(成果はどの程度達成され、その成果と投入の量・質は妥当であったか)
効率についての問題なのですが、次の大変だったこと・課題になったこと、で説明します。
- インパクト(上位目標は、プロジェクト目標達成の結果としてどの程度達成されたか。)

京都の外国人観光客を増やすという究極の目標(アウトカム)に関しては規模が大きいのでわかりませんが、記事のPV数を見ると目標(アウトプット)には近づけたのではないかと思います。

大変だったこと・課題になったこと

個人的に記事を執筆する上で大変だったことが、「テーマ決め」なのですが、ひとつはテーマが広いということと、テーマを売り込む形で受け入れ先の方にプレゼンをするということで、需要や目的・ターゲットについて考え、調べながら決めないのでテーマがなかなか決まらず苦戦しました。作業時間の面からも、2、3日後ろ倒しすることになりました。

そして、コミュニケーションにおいても不十分だったと思います。ディアライブさんが忙しいこともあり仕方がない事なのですが、全てオンラインでのミーティングであったことで、作業効率やコミュニケーションに影響があったと考えます。なので、テーマ決めの段階で対面でミーティングをして、ブレインストーミングの形式でテーマを固めていくという方法とあったと気づきました。

今回のプロジェクトを通して、様々な面で大きく成長することができたと感じています。

初めての仕事、初めての記事執筆をなんとかやり遂げられたことが本当に嬉しいです。そして、途中から1人での活動となりましたが最後までなんとか活動することができたのは、受け入れ先の方々の指導や、コーディネーターの方や、コンソーシアム京都の方々のサポートがあったからです。ここで学んだ全てのことを忘れずに、これからの学生生活や就活、これからの人生に活かして行きたいと思います。